

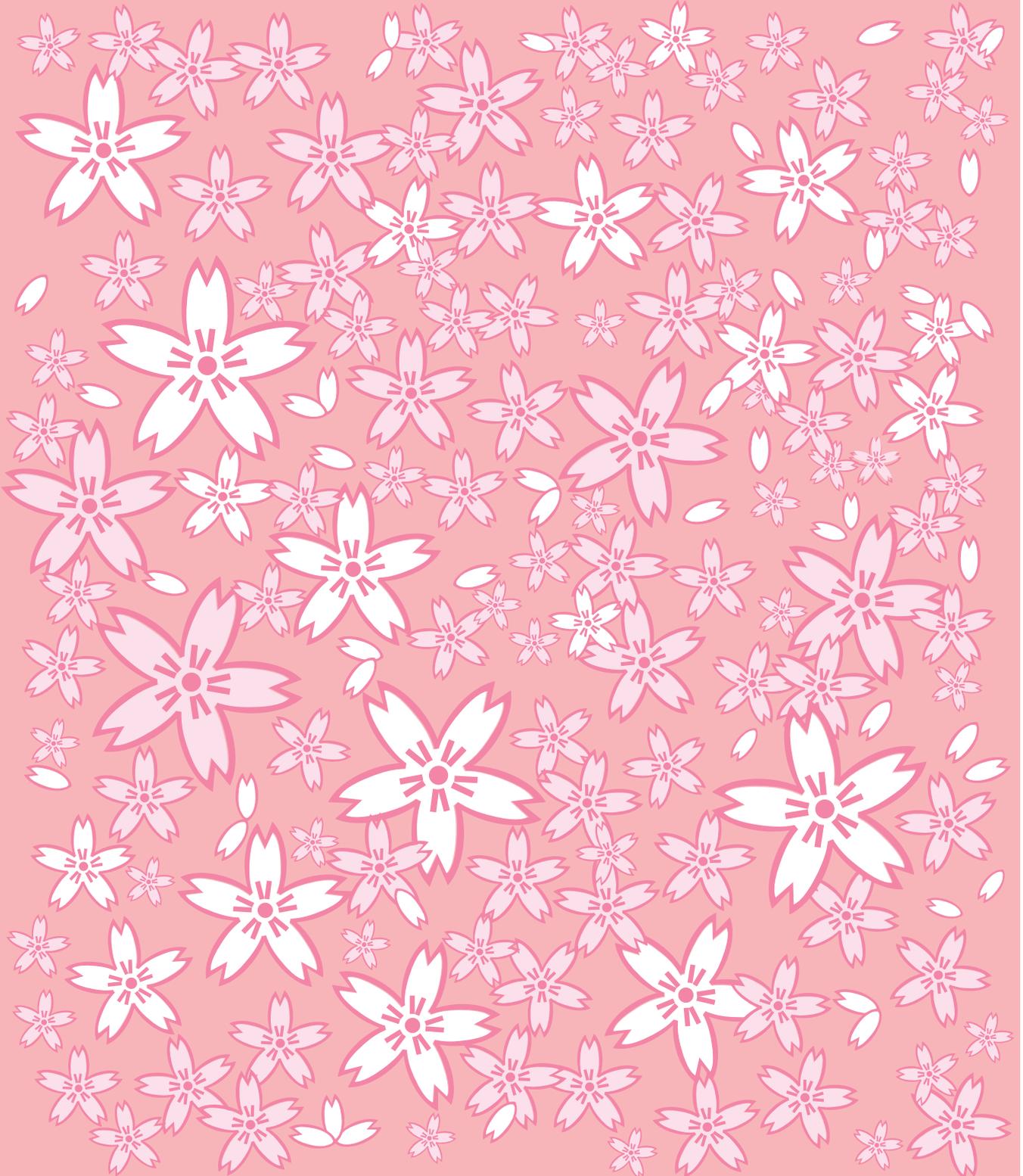
会報

春

No.153

2011.4

社団法人 北海道電業協会





今回の地震で思うこと

原子力安全・保安院

北海道産業保安監督部長 折田 憲一

私は、資源開発関係の部署に多く配属されてきたことから、普通だとなかなか行きそうにもない地域に海外出張する機会に恵まれ、またその分、数多くの身の危険を感じる場面に遭遇してきました。

これまで訪問した国は、北米大陸（米国）、南米大陸（ベネズエラ、ペルー、チリ、アルゼンチン）、オーストラリア大陸（豪州）、アフリカ大陸（ニジェール、コートジボワール）、ユーラシア大陸（ロシア、フランス、ギリシャ、トルコ、キルギス、カザフスタン、パキスタン、シンガポール、ベトナム、韓国、中国、返還前の香港）、台湾、インドネシアの国々です。

初めて海外出張したチリでは、帰国の飛行機に搭乗しほっとした間もなく、爆破予告により降ろさせられ、飛行機の横で一人一人各自の荷物を確認させられたこと。ペルーでは、アンデス山脈の探鉱ボーリング調査地点（標高4,744m）で、息の切れ具合を確認したいと思い小走りして、その夜は酸素ボンベのお世話になったこと（この2か月後に在ペルー大使公邸占拠事件が発生し、テレビでお世話になった方々の名前を見つけ、愕然とすることになるのですが）。

ニジェールでは、出張先の地域が黄熱病・脳髄膜炎・マラリアの汚染地域であったため、予防接種をし、冬場であったため、どこにも売っていなかった蚊取線香を苦労して探しだし、それを握りしめて現地に乗り込んだこと。

ロシアでは、内陸部にある地方都市から帰路に就く際、予定していた飛行機が飛ばず、しかも次

のフライトが1週間先であったため、ハバロフスクまでシベリア鉄道（風呂なし車中2泊の旅）で移動したこと（他国でもあることですが、ホテルでパスポートを没収されるのは、とても心細いものです）。キルギスでは、日本人鉱山技師拉致事件に係る現地対策本部への派遣要員となり、拉致者が解放されるまで現場で後方支援したこと（解放された方々を滑走路内で見送り、専用機が日本へ飛び立ち、飛行機が見えなくなるのを確認して初めて、ほっとしたのを覚えている）。ベトナムでは、日本では過去の遺産である木柱支保のある炭鉱に入坑し、生きた心地がしなかったこと。

これらの体験もあり、たとえどんな局面に立ち会おうとも動揺すまい、いや、しないだろうと過信していましたが、今回の東北地方太平洋沖地震の惨状を目にしますと、そんな気持ちは吹き飛んでしまい、ただただ心が痛むばかりです。当然ながら、それに立ち止まることは許されませんが。

従って、改めて思うことは、謙虚になり今日為すべきことは今日に為し、明日が少しでもより良いものになるよう努力することだと思います。

私たち産業保安監督部の使命は、国民の安全安心のために、産業保安を確保し、事故の未然防止を図ることであり、たとえ事故・災害が発生したとしても、その被害を最小限に止め、拡大させないことです。これには、皆様のご協力が不可欠でありますので、今後とも、保安の確保に向けてご尽力頂きますようお願い申し上げます。

そして、甚大な被害を受けられました震災地の一日も早い復興を心から願っています。

平成23年電気関係賀詞交歓会



近藤会長挨拶

恒例の上記3団体による「平成23年電気関係賀詞交換会」が、1月12日札幌グランドホテルにおいて、多数のご来賓と3団体の会員合わせて約350名が出席して開催された。

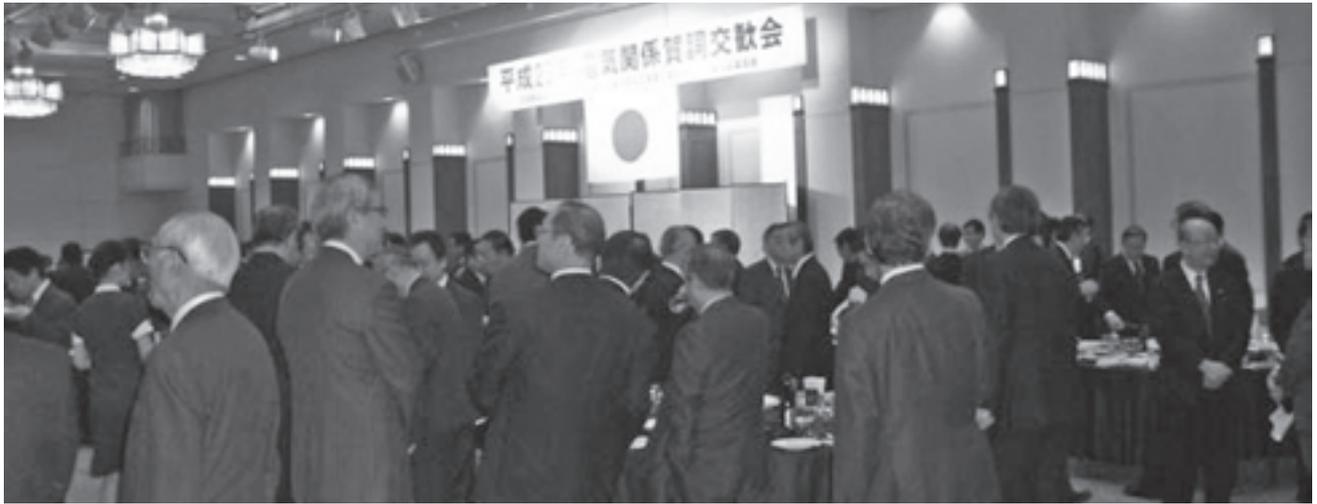
初めに主催3団体を代表して(社)日本電気協会北海道電気協会の近藤会長が挨拶された。

近藤会長は、最近の国内情勢から「デフレ脱却の姿勢を鮮明にする金融緩和、ゼロ金利政策を復活させ、緊急総合経済対策など数々の対応がとられてきたが、リーマンショックに端を発した世界同時不況から脱する事ができず、政界では前回の衆議院選挙で民主党への政権交代がなされ1年も経たないうちに鳩山内閣から菅内閣に変わり、世論の支持率も急激に低下している。他の地域と比べて社会資本整備が立ち遅れ、公共事業への依存

日時 平成23年1月12日(水)11時から
場所 札幌グランドホテル2階
「グランドホール」

(社)日本電気協会北海道電気協会
北海道電気工事業工業組合
(社)北海道電業協会

度が高いなど脆弱な産業構造を抱えている北海道では、益々地域経済に与える影響が出てくることを危惧している」さらに「昨年6月に閣議決定したエネルギー基本計画では、温暖化対策や効率的な供給などの基本的視点が示されたが、ゼロエミッション電源比率の引き上げの視点が盛り込まれており、今後電力業界としても慎重に見ていきたい」と語った。つづいて明るい話題として、北大名誉教授の鈴木章氏のノーベル賞受賞に触れ「研究成果はこれまで極めて困難であった複雑な天然物の合成が可能となり幅広い分野に応用されている。鈴木先生のノーベル賞受賞は次代を担う若者に夢と希望を与えるものであり、さらに北海道に明るい未来を感じさせるとともに、活性化に結びつくものと期待している」と述べ、「今年も厳しい



船出となるが皆さんと力強く乗り切っていきたい」と挨拶された。

続いて、来賓の北海道経済産業局資源エネルギー環境部長鈴木洋一郎様から、祝辞を頂戴いたしました。まず、日頃から電力という国民生活や産業に不可欠なエネルギー供給に尽力されていることに対するお礼を述べられてから、最近の経済情勢について触れ、非常に厳しい状況が続いているけれど、中長期的な視野から来るべき春に備えて、必要な事を着実にやっていかなければならないとし「エネルギー基本計画では、原子力発電の稼働率を上げるといった目標を掲げており、さまざまな施策の検討を重ねている。電力の安定供給という力がなければ前に進めないなので、できるだけの支援に力を注いでいきたい」と述べられ、今後も電気関係3団体の一層のご理解とご協力をお願いされて締めくくった。



乾杯 尾池理事長

この後、北海道電気工事業工業組合の尾池理事長の乾杯で交歓会が始まり、会場では景気回復や企業業績アップを願い、あちこちで名刺交換や歓談する姿がみられ、和やかな雰囲気でも時間の経つのも忘れるほどの賑わいであった。

最後に当協会の中野副会長の締めでお開きとなった。



ご祝辞 鈴木洋一郎 資源エネルギー環境部長



お開き 中野副会長

技術講習会「電気設備工事の施工計画」



平成23年2月17日(木)午後1時30分から、北海道電気会館会議室において「電気設備工事の施工計画」の講習会を開催した。受講者は会員企業の工事の実務担当者で35社47名の方々が参加された。開催にあたり主催者を代表して、当協会の樋口雄一副会長から、最近の電気設備業界を取り巻く環境について触れ「北海道では公共工事の減少などから全国平均と比べても一段と厳しい状況にあるが、技術力の向上や安全作業の継続など、できることを確実に実行して、この難局を乗り切っていただきたい。今回のテーマである施工計画は、新産業の登場や情報化社会に伴い業務の範囲が広がっている中で、適切な立案と実行が求められている。本日の講習会で施工計画について学び、しっかりと身に付け仕事に役立てていただきたい」と挨拶された。

講師には、北海電気工事(株)電設工事部長の佐々

木成氏が日本電設工業協会本部から派遣された。

講習会では、テキスト「電気設備工事施工計画書」と、パソコンのパワーポイントを用いて、施工計画書の基本事項など要点をわかり易く解説された。

佐々木氏は「施工計画書は現場代理人にとって、自分の現場をどのように施工していくのか、意気込みを表しお客様に伝えるものであり、工期内に、安全に、品質を確保して収益を得るための施工管理業務を遂行していかなければならない。更に、施工の過程で、計画通りに物事が進んでいるのかチェックして、常にPDCAを展開させ、施工計画書を見直すことが肝要である」とアドバイスがあった。

受講者は業務を円滑に進める上で欠かせない各工程における適切な段取りの組み方などに理解を深めた。



開講挨拶 樋口副会長



講師 佐々木 成 氏

電気設備工事現場見学会



ダイナックスでの概要説明

平成23年2月24日(木)会員企業の技術向上と最新設備の見聞を深めるため、見学会を実施した。今回は、(株)ダイヘン千歳工場と(株)ダイナックス千歳工場の2箇所、会員会社15社22名が参加した。

(株)ダイヘン千歳工場は、道内唯一の重電機器製造工場として1967年に稼働。以来、電力供給に最も身近で欠かすことのできない柱上変圧器を製造している。

最初に製造グループ長の岡村俊二氏から、施設の概要について説明があった。

千歳工場の設計思想は「クリーン&クリーンレス」で、防塵化と自動化に積極的に取り組んでいた。防塵化対策では、変圧器もエレクトロニクス機器同様、ほこりやちりを嫌うので天井や床面に徹底した防塵化構造を施し、さらに、自動化されている連続焼鈍炉は、いままで数工程に分かれていた工程を一つにまとめ、コンベア上で連続的に鉄心を焼鈍する画期的なシステムになっていた。このほか、巻線機の自動化など様々な段階で自動化が施され、効率化を図っていた。

次に、(株)ダイナックス千歳工場を見学。

最初に本社社屋内にある会議室で、総務チームの関谷哲平氏から概要説明があった。

主力製品はオートマチック車用のクラッチで世界全体シェアは約35%になっている。常に高いレベルの品質を維持するために、国際規格の「ISO 9001:2000」の認証を取得し、徹底した品質管理システムを導入。2005年には第1回ものづくり日本大賞「経済産業大臣賞」を受賞するなど、常に世界のトップメーカーとして自動車社会を創造する研究・開発を目指していた。

工場内は整理・整頓され、クラッチのディスクやプレートが連続して造られている様子は圧巻であった。特にプレートは、専用の高品位鋼材を用いて耐久性とともに、摩擦材との組み合わせで最適仕様を保証していた。

また、工場に隣接して保育園(定員30名)が設置され、子育て女性には働きやすい環境となっていた。



電設業関連四団体懇談会



平成23年2月21日(月)午後4時から北電北二条クラブにおいて、当協会、北海道電気資材卸業協同組合、電設資材総合メーカー（3社）、(社)日本配電制御システム工業会北海道支部の4団体による懇談会を開催。各団体から17名が出席した。

はじめに、当協会の吉川会長から日頃の皆さんのご協力に対して感謝の意が述べられたあと「厳しい経営環境が継続している中で、電設業関連四団体が一致団結協力して、この難局を乗り越えていくためにも有意義な懇談会にして欲しい」と挨拶があった。

続いて、嘉部支部長から「お客様から求められている最大要因は品質と技術力です。当協会ではISO9001に基づくJSIA優良工場認定制度を企業経営の柱としたい」と抱負を述べられ、また「当業界として最大の課題は後継者が育たないことである。将来を見据えた人材育成に取り組みたい」と挨拶された。

次に、滝川理事長から「北海道の建設業は厳しい状況が継続しているが、家電製品のエコポイント制度の恩恵や、地球環境にやさしい省エネ商品、オール電化住宅の増加、さらに太陽光発電、LED蛍光灯の普及拡大など明るい材料もあるので、皆さんで力を出し合っこの難局を乗り越えよう」と挨拶された。

引き続き各団体、メーカー各社から業界の現状と今後の見通し・対策などの報告があった。

最後に当協会の小川専務理事から昨年度実施された会員調査の実施結果から、電気設備工事業に係る受注状況・完成工事高などについて、および昨年10月に日本電設工業会が策定した「会員大会決議」と「適正工期の確保」に関する取り組みについて説明した。

会議終了後の懇親会では、情報交換の場となり和やかな雰囲気の中で終了した。



吉川 会長挨拶
(社)北海道電業協会



嘉部 支部長
日本配電制御システム工業会



滝川 理事長
北海道電気資材卸業協同組合

電気・空衛連絡協議会



平成23年3月15日(火)北海道設備会館会議室において、当協会と(社)北海道空調衛生工事業協会による連絡協議会を開催した。

道空衛からは、池田会長ほか10名、当協会からは吉川会長ほか11名が出席した。

本協議会は、電気・空衛の両協会が連携・協調して事業を推進するため毎年開催しており、両業界の共通課題に取り組み、情報交換及び検討会を重ね、両協会の地位向上、企業経営に大きな役割を果たしている。

今年は、下記の協議事項について意見交換を行った。

【協議事項】

1. 電気・空衛連絡協議会行事予定について
2. 札幌市と電気・空衛連絡協議会との意見交換会について
3. 北海道設備設計事務所協会との協議会開催について

【出席者】

◎(社)北海道空調衛生工事業協会

(社)札幌空調衛生工事業協会 (札空衛)

会 長	池 田 薫
副 会 長	渡 部 正 博
(札 空 衛)	
副 会 長	里 中 雅 幸
副 会 長	大 谷 美 貴 夫
常任理事 総務担当	佐 橋 光 好
〃 技術担当	五 十 嵐 正 明
理 事 総務委員長	太 田 正 則



池田会長



吉川会長

〃 広報委員長
 〃 技術委員長
 事務局 長
 監 事

福 澤 昇
 田 中 克 典
 小 林 雅 英
 石 黒 憲 昭
 (11名)

◎(社)北海道電業協会

会 長
 副 会 長
 〃
 〃
 理 事 総務委員長
 〃 経営委員長
 〃 広報委員長
 〃 技術安全委員長
 〃 厚生委員長
 経営副委員長
 専務理事
 事務局 長

吉 川 照 一
 中 野 章
 山 口 勉
 樋 口 雄 一
 加 藤 勝 利
 小 野 寺 涼 一
 橋 本 耕 二
 岡 竹 俊 和
 萩 本 哲 夫
 元 永 修
 小 川 孝 樹
 枝 並 秀 喜
 (12名)

札幌市都市局との意見交換会



当協会と(社)北海道空調衛生工事業協会との共催で3月15日(火)北海道設備会館会議室において、札幌市都市局幹部の方々のご出席をいただき、意見交換会を開催した。

電業協会と道空衛協会からそれぞれ会長、副会長、理事ら合わせて23名が参加した。札幌市都市局からは芝富士夫設備担当部長、日當雅博電気設備課長、佐藤之則機械設備課長、が出席された。



芝 富士夫 設備担当部長

札幌市からの情報提供として芝部長から、円山動物園のアジア館の新設さらに、全国初となる通年型カーリング場の新設や北白石小中学校の改築工事などの大型工事について説明があった。

＜意見交換会の内容は次のとおり＞

1. 札幌市からの情報提供

- ①札幌市の事業動向と今後の見通し
- ②入札契約制度等について
- ③その他

2. 要望事項

- ①分離発注の継続について
- ②札幌市との防災協定締結に向けたお願い
- ③地域社会貢献活動の評価について
- ④最低制限価格の引き上げについて
- ⑤大型工事の分割発注について
- ⑥工事量確保のお願い

「道設備設計事務所協会」と「電気・空衛連絡協」との意見交換会



当協会と(社)北海道空調衛生工事業協会で構成する「電気・空衛連絡協議会」と北海道設備設計事務所協会との意見交換会が3月23日(水)北海道電気設備会館で開催され、3協会から合わせて29名が出席した。

はじめに、池田会長から業界を取り巻く環境が厳しさを増す中で、東北関東大震災と福島原発の事故により、さらに厳しさが増してくる状況を強調され「本日は活発な意見交換会にさせていただきたい」と挨拶された。

つづいて、各業界から状況報告があり、電業協会からは、電設工事業界をめぐる最近の状況と当協会の事業取り組みについて。会員調査結果の資料から、会員の受注が全国的に大きな落ち込みになっている現状を報告。さらに日本電設工業協会が昨年10月に策定した「22年度会員大会決議事項」について説明。

道空衛協会からは、最近の日空衛の活動状況から、コンプライアンスの確保や公正な事業活動の取り組みについて説明があつた。道設備設計事務所協会からは、北海道建築局整備課と設備関係団体による勉強会の開催状況。札幌市都市局幹部との意見交換会の概要について説明された。最後に、吉川会長から東北関東大震災の影響もあり、被災地優先の観点から、公共工事の延期、減少が見込まれる。さらに資材や原油価格の高騰などで厳しい状況が続くが、この難局をみんなで力を合わせて乗り越えようと挨拶された。

【議事次第】

1. 各業界の現状について
各業界から説明（各15分程度）
2. 電気・空衛連絡協議会の活動内容
3. 意見交換・質疑応答



吉川会長
(社)北海道電業協会



種市会長
北海道設備設計事務所協会



池田会長
(社)北海道空調衛生工事業協会



日本を代表する港湾と緑豊かなまち 苫小牧市

苫小牧市長 岩倉博文



苫小牧は、特定重要港湾である海の玄関「苫小牧港」と空の玄関「新千歳空港」を有し、鉄道、国道、高速自動車道などの交通アクセスに恵まれた活気にあふれる都市です。

紙・パルプ、自動車部品、金属などの工業基地、石油備蓄基地や道内唯一の油ガス田を抱えるエネルギー基地、次代を担うリサイクル産業基地として全国の注目を集めている工業都市でありながら、勇払原野や樽前山のふもとに広がる広大な森林や湖沼など、緑に恵まれた自然豊かな環境にあります。



◆苫小牧のシンボル「樽前山」

樽前山は、北海道の天然記念物に指定されている学術的にも貴重な溶岩円頂丘（ドーム）があり、世界的にも珍しい三重式活火山として知られています。七合目ヒュッテまで車で行くことができ、頂上までは50分で登ることができます。高山植物の観察、支笏湖や太平洋の雄大な景色を堪能でき、本格的な登山が身近に楽しめる山として親しまれています。

◆日本初の野鳥のサンクチュアリ「ウトナイ湖」

国指定鳥獣保護区に定められ、国内4番目のラムサール条約の登録湿地であるウトナイ湖は、わが国有数の渡り鳥の中継地・越冬地です。動植物の宝庫、野鳥の楽園といわれており、ハクチョウ類、ガンカモ類等、現在まで250種を超える鳥類が確認され、バードウォッチングや自然散策など、四季折々の自然や野鳥とのふれあいが楽しめます。



◆とまこまいの「特産品」

「市の貝」である「ホッキ貝」は、水揚げ9年連続日本一です。特許庁の地域団体商標でブランドにも認定され、「海の駅 ぶらっとみなと市場」をはじめ、市内の飲食店で様々なメニューとして提供されています。

また、「市の木の花」である「ハスカップ」は、甘酸っぱくビタミンCが豊富で「不老長寿の実」として珍重されています。ジャム・お菓子などに数多く加工されている苫小牧を代表する味覚です。



◆5つ星オートキャンプ場

「オートリゾート苫小牧アルテン」

アルテンは、日本オートキャンプ協会から最高ランク5つ星の評価を受けているキャンプ場です。ログハウスをはじめ、バーベキューコーナー、温泉、パークゴルフ場等、各種施設が整備され、カヌーや乗馬、冬にはわかさぎ釣りなど、自然を満喫できる最高の場所となっています。



◆宇宙ステーション「ミール」

ミールは1986年に旧ソ連が打ち上げた世界初の長期滞在型の宇宙ステーションです。

2001年までの間、宇宙空間で様々な実験が行われました。苫小牧市科学センターには、このミール基幹モジュールの予備機が展示してあります。



◆夏の一大イベント「港まつり」

◆冬の風物詩「スケートまつり」

港まつりは、毎年約35万人の市民・観光客が楽しむ夏のお祭りで、メイン会場のビアガーデンやステージイベント、花火大会、市民おどり等が苫小牧の夏を熱く盛り上げます。

スケートまつりは、ドラム缶の焼台でジンギスカンを食べる、苫小牧の冬の風物詩「しばれ焼き」のほか、雪の滑り台や参加型イベント等家族みんなで楽しめる冬の祭典です。





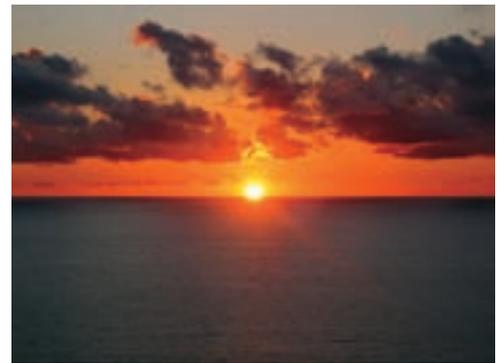
人と自然が調和したまち 海と太陽と緑のさと 小平町

小平町長 関 次 雄



小平町は、北海道北西部の日本海側に位置し、日本最北の国指定重要文化財で北海道遺産にも認定されている旧花田家番屋、ホタテ、タコ、ウニといった豊富な海産物、アイボリーメロンやかぼちゃなどの農産物、広大な大地の中で育まれた黒毛和牛などの豊富な資源を有し、青い海と緑に囲まれた自然豊かな町です。

また、国道232号が海岸沿いに並行しており、雄大な日本海に沈む夕日は絶景で、ドライビングコースに最適です。



◆国指定重要文化財「旧花田家番屋」

明治38年ごろに建築され、道内で現存する番屋では最大の規模を有し、すでに稀有となった古民家的建築物鯨番屋の代表的遺構です。当時の鯨漁で使われた道具や、生活道具が展示されています。

毎年5月下旬には、「鯨番屋まつり」が開催され、当日は番屋内が無料開放されています。鯨三平汁の配布も行っており、訪れた人々に大変喜ばれています。

また道の駅「おびら鯨番屋」を併設しており、レストランでは、焼きにしん定食やにしんそばを味わうことができます。国道232号線をはさんで海側には「にしん文化歴史公園」があり、北海道の名付け親、松浦武四郎翁の像が建っています。また、夕日をイメージしたモニュメントには、武四郎が詠んだ短歌（西蝦夷日誌に記述）が刻まれています。天気の良い日には、美しい夕日を眺めることができます。

◆都市農村交流施設

「ゆうゆうそう（夕遊創）」



宿泊研修施設で、挽きたての小平産そば粉を使ったそば打ちや、パン・豆腐などの食品加工体験をすることができます。また施設周辺において、陶芸、ヨット・カヌーなどの海洋スポーツ、化石発掘体験の他、田植えやイチゴ・スイートコーンなど農産物の収穫、地元の漁師さんと一緒に行う刺し網体験など様々な体験メニューがあり、小平町の魅力を満喫することができます。

また、ゆったりかん（宿泊施設）、望洋台キャンプ場、小平町国際パークゴルフ場が隣接しており、ゆったりかんでは大浴場で光明石温泉を楽しむことができます。

◆「小平町文化交流センター」

日本海の力強さをイメージした外観と豊かさをイメージした内観を併せ持つ、町民の文化交流の拠点です。サークル活動や図書室の利用、会議、催し物開催など様々な形で町民が利用し、交流の場となっています。

また、有名アーティストによるコンサートや演劇、映画鑑賞会等も行われ、町内外から来館した多くの方々を楽しませています。



◆小平町の魅力満載!! 「小平町産業まつり」

毎年8月下旬に行われる夏の一大イベントです。ゆったりかん多目的広場で開催され、バーベキューコーナーで「小平産黒毛和牛」を味わうことができ、好評を博しています。また、新鮮な農産品や水産加工品などの直売のほか、様々なイベントやゲーム大会が行われ、ステージでは、おびら太鼓「麓龍」と「麓龍ジュニア」による勇壮な太鼓演奏や、町内の様々な特産品が当たる、お楽しみ抽選会などが催されます。小平産米のすくいどりでは行列が出来るほどの盛況ぶりです。小平薬川河口では、カヌーやヨット、バナナボートを楽しむことができ、子供たちにも人気があり、町内のみならず、町外からもたくさんの人々が訪れ、楽しいひとときを過ごしています。



◆小平産ぶどうワイン「オー・ビラージュ」

小平町の大地で大切に育てられた「ぶどう」から作り、街の上の畑から収穫されたことから「オー・ビラージュ」と名づけました。

セイベル種から造られた赤（辛口）、バッカス種から造られた白（中口）、ロゼ（甘口）と3種類を揃えています。



どのワインも、国産ぶどうならではのフルーティーな味わい豊かなワインに仕上がっています。

●まちの概要●

- 【人 口】 3,717人（平成23年1月末現在）
- 【世 帯 数】 1,768世帯（同上）
- 【まちの木】 イチイ
- 【まちの花】 ツツジ

詳しくは小平町ホームページをご覧ください。

<http://www.town.obira.hokkaido.jp/>

現場からこんにちは



工事名称	札幌ドーム太陽光発電設備 設置工事
工事場所	札幌市豊平区羊ヶ丘1番地3
工期	平成22年9月13日～ 平成23年2月1日
連係する電力系統	特別高圧一般配線 (三相3線 60KV 50Hz)
連係方式	みなし低圧連係
発電設備の種類	太陽電池発電所
設備容量	太陽電池容量90kw インバーター100kw
発注者	札幌市
請負者	株式会社北弘電社

この工事は、札幌市が地球温暖化対策として、環境への負荷が少ない新エネルギーの導入を進めるための「札幌・サンサンプロジェクト」の一事業で、札幌ドーム敷地内に太陽光パネルや支柱を設置し、ドーム内にデータ収集装置、表示装置、インバーター盤を設置する太陽光発電システムに伴う電気設備工事であります。

ドーム南側羊ヶ丘通り沿いの駐車場のフェンスを兼ねた支柱を新設し、この支柱に札幌市の施設としては初めて90度の傾斜角度を付けて太陽光パネルを設置しました。横に並べたパネルの全長は320m余りにわたっており、設置環境に配慮した、まぶしさを軽減する表面素材となっています。パネルを固定するための支柱は高さ4m、パネルの高さも4mに設置され、強風にも耐えられるように、6mの鋼材を基礎の杭として打ち込んでいます。また、パネル下端で1.5m以上の積雪深度の高さを有した積雪対策も施され、架台に日

射計、気温計が設置されています。

太陽光パネル（シリコン太陽電池）は太陽からの日射を受けると直流電力を発生し、これを接続箱に集電します。電気室内に設置されたインバーターは、この直流電力を並列する商用電源の電圧、周波数、位相と同期した交流電力に変換し対象とする負荷へ電力を供給します。

運転データ等はデータ収集装置により収集されます。太陽光発電は午後10時から午前8時の間は系統より切り離し、発電制限を設けています。

ドーム1階西1ゲート前に設置された42インチの大型ディスプレイは、太陽光発電電力、一日の積算電力量、二酸化炭素排出削減相当量、発電電力量、日射速度、外気温度などが表示されます。

発電量は年間で約61,000kWh見込まれ、二酸化炭素に換算すると年間26トンの削減に相当し、地球環境の保全にも大きく貢献しています。

札幌市では、これからも積極的に新エネルギーを取り入れた施設づくりをしていきます。

取材 広報委員 藤井 貴史
松岡 孝夫



現場代理人 渡辺 丈朋さん

分離発注訪問記



岩内町役場にて、鎌塚徹建設水道部長（右）と面談する岩城会長



小樽後志電設業協会は、後志総合振興局管内の1市19町村を担当し、区域を4つに分けて、分離発注の「陳情要請と御礼」を会長と副会長3名で手分けして実施しております。

小樽市、赤井川村および積丹半島東部地域の担当は、木村副会長（株大江電気代表取締役）と加藤副会長（株加藤電機商会代表取締役）、岩内町を含む積丹半島西部と黒松内町から島牧村までの地域の担当は岩城会長（株富士電気商会代表取締役）、羊蹄山を囲む地域の担当は内山副会長（株内山電業社代表取締役）、以上4名で実施いたしました。

管内の市町村はおおむね分離発注にご理解をいただいておりますが、二つの自治体が一括発注を行っているのが現状です。担当している二人の副会長は毎年ねばり強く、分離発注の意義や必要性について説明して、ご理解はいただいておりますが、それぞれの自治体の事情もあり一括発注となっております。今度とも「継続は力なり」を旨として、いつか良い方向へ向かうことを信じて地道な陳情活動をして行く所存であります。

さて、去る2月25日、事務局員である私は、岩

城会長に同行して岩内町役場を訪問いたしました。建設水道部の鎌塚徹部長に面談を求めたところ大変快くお受けいただきました。訪問趣旨の説明と分離発注の継続についてお願いしたところ、鎌塚部長からは、活動の趣旨に賛同するお言葉をいただき、今後も分離発注を基本として工事を発注する旨のご回答をいただきましたことは、大変心強く、深い感謝の意をお伝えしてまいりました。

その後、今年の大雪に見舞われた町の除雪費用の話題や公共工事を取り巻く状況について懇談し庁舎を後にしました。

この度の岩内町訪問を振り返ると「分離発注」は単純な“分離か一括か”の問題にとどまらず、地域を構成する一員としての期待の込められた発注方法ではないかと感じ、今後とも「自己研鑽」を怠らず、専門業者として自治体の要請に応えていかねばと思いました。

この度は、お忙しい中ご対応頂きました各市町村の皆様へ深く感謝申し上げ、分離発注訪問記とさせていただきます。

記 小樽後志電設業協会事務局 小林正始
（株富士電機商会 営業部長）

お 知 ら せ

○平成23年度電気工事施工管理技士受験準備講習会

1 級学科

【申込受付期間】

平成23年 2 月22日(火)から 4 月21日(木)まで (定員になり次第締め切り)

【申込方法】

- ・ 所定の申込用紙により(社)日本電設工業協会北海道支部宛にFAX
- ・ 申込用紙は、(社)北海道電業協会でも取り扱う。

【開催日】

平成23年 4 月26日(火)～ 4 月27日(水) 2 日間

【開催場所】

北海道開発協会会議室

札幌市北区北11条西 2 丁目セントラル札幌北ビル 6 F 電話011-709-5211

【検定試験日】

平成23年 6 月12日(日)

1 級実地

【申込受付期間】

平成23年 7 月15日から開催日当日まで (定員になり次第締め切り)

【申込方法】

- ・ 所定の申込用紙により(社)日本電設工業協会北海道支部宛にFAX
- ・ 申込用紙は、(社)北海道電業協会でも取り扱う。

【開催日】

平成23年 9 月 5 日(月)

【開催場所】

北海道開発協会会議室

札幌市北区北11条西 2 丁目セントラル札幌北ビル 6 F 電話011-709-5211

【検定試験日】

平成23年10月16日(日)

○平成23年度登録電気工事基幹技能者特例講習会

【受付期間】

平成23年 5 月 2 日(月)から平成23年 5 月31日(火)

【開催日】

平成23年 8 月26日(金)

【開催場所】

北海道電気会館
(札幌市中央区大通東 3 丁目)

【開催概要】

この講習会は、平成19年度以前に認定した電気工事統括技士及び電気工事基幹技能者の資格を取得した人が、平成21年度より実施されている経営事項審査（経審）で加点評価されるための特例講習会です。

この特例講習会は平成20年度から平成24年度までの 5 年間に実施します。

【受講資格】

平成19年度以前に電気工事基幹技能者（電気工事統括技士を含む）の資格を取得した者であり、次の条件を全て満たす者とする。

1. 基幹技能者資格を取得後、1年以上基幹技能者として電気工事の現場施工に従事した経験があつて、これについて事業主等よりの証明が得られること。
2. 電気工事の現場施工に従事して、10年以上の実務経験があり、3年以上の職長経験を有していることを証明できる者。

①実務経験は事業主による証明とする。

②職長経験は事業主による証明と、労働安全衛生法第60条による職長教育終了証とする。

【受講料】

8,000円

受講料には、受講費、教材費、その他関係諸経費が含まれる。

【申込方法】

所定の申込用紙により(社)日本電設工業協会北海道支部に提出。

申込用紙は、(社)北海道電業協会でも取り扱う。

【特例講習会受講者の認定】

特例講習会を受講して登録基幹技能者として認定された者には、登録電気工事基幹技能者講習終了証が付与され、(社)日本電設工業協会に登録して公表する。

○平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会

【申込受付期間】

平成23年8月1日(月)から8月31日(水)まで

【開催日】

平成23年10月29日(土)～10月30日(日) 2日間

【開催場所】

北海道電気会館

(札幌市中央区大通東3丁目)

【受講資格者】

- (1) 認定講習を受講できる者は、次の条件を全て満たす者とする。
 - ①第一種電気工事士の免状取得後、電気工事の直接施工業務に従事して、5年以上の実務経験を有する者。
 - ②電気工事の直接施工業務に従事して該当する建設業の種類につき10年以上の実務経験があり、労働安全衛生法第60条による職長教育を終了して、受講前日までに3年以上の職長経験を有している者。
- (2) 条件を満たす証明書類は次の書類を添付する
 - ①実務経験については、事業主が証明した実務経験証明書。受講者が事業主の場合は、記載事実と相違がない旨の誓約書(署名、捺印)が必要
 - ②第1種電気工事士免状の写し、また職長経験については、同実務経験証明書と労働安全衛生法第60条による職長教育終了証の写しを添付する。

【受講料】

18,000円(受講料には、受講費、教材費、認定関係費が含まれます)

8,000円 平成22年度の認定講習会・試験で不合格通知を受け、試験のみ受験する者。

【申込方法】

所定の申込用紙により(社)日本電設工業協会北海道支部に提出。

申込用紙は、(社)北海道電業協会でも取り扱う。

【電気工事基幹技能者の認定・特典】

認定講習を受講し、終了査定(試験)に合格した者は、「登録電気工事基幹技能者」として認定され、(社)日本電設工業協会会長から「登録電気工事基幹技能者証」が交付される。また、建設業法第27条の23第3項経営事項審査の項目及び基準を定める件(国土交通省告示第85号機関技能者関係)により登録基幹技能者は技術職員の加点として3点が、平成21年度より認められることになった。

業界だより

- | | |
|--|--|
| ○会員代表者の変更
平成23年3月21日付 | ○住所変更
平成23年2月1日付 |
| ・東邦電設(株)札幌支店
(新)支店長 横田 寛
(旧)支店長 吉田 勇 | ・オホーツク圏電業協会
(新住所) 090-0801
北見市春光町2丁目155番地
北見地区電気工事業協同組合内
電話 0157-24-6545
FAX 0157-24-0217 |
| ○社名変更 平成23年1月1日付 | ○退会
平成23年3月31日付 |
| ・新社名 (株)データ電建
・旧社名 (株)タカラ電建
(注) 代表者、住所、電話番号は従来通り | ・東芝プラントシステム(株) |

理事会・委員会報告

理 事 会

◇平成23年1月25日(火) 12:00~13:30

第6回議題

【協議事項】

1. 平成23年役員会等の日程について
2. 平成22年度電設業関連四団体懇談会の開催について

以上提案どおり承認された

【報告事項】

1. 平成22年度登録基幹技能者認定専門委員会開催概要について
2. 平成22年度技術講習会の開催について
3. 平成22年度電気設備現場見学会の開催について
4. 平成22年度北海道赤レンガ建築賞審査結果について
5. 当協会の業務及び財産の状況に関する道庁検査結果について
6. 本部・支部事務連絡会議の開催について
7. 会員企業の社名変更について
8. 平成23年度電気・空衛連絡協議会の活動予定について
9. 平成23年1月~3月行事予定について
10. その他意見交換
以上概要を報告(小川専務理事)

◇平成23年3月30日(水) 12:00~13:30

第7回議題

【協議事項】

1. 電業協会功績者表彰の推薦について
2. 会員の退会届について
3. 平成22年度第2回評議会の開催について
4. 通常総会(45回、55回)までのスケジュール
5. 電業協会第45回通常総会付議事項について
6. 電設協道支部第55回通常総会付議事項について

以上提案どおり承認された

【報告事項】

1. 本部政策委員会第236回の開催概要
2. 本部・支部事務連絡会議の概要報告
3. 電設業関連四団体懇談会の開催概要について
4. 平成23年度電気・空衛連絡協議会の開催概要について
5. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会概要報告について
6. 道設備設計事務所協会との意見交換会について
7. 平成23年度「技術安全衛生基礎教育講習会」の開催
8. 法人職務執行者の変更
9. 平成23年3月~4月行事予定
10. その他意見交換
以上概要を報告(小川専務理事)

|| 三 役 会

◇平成23年 1月17日(月) 12:00~13:30

第10回議題

1. 平成23年役員会等の日程
2. 平成22年度電設業関連四団体懇談会の開催
3. 登録電気工事基幹技能者認定専門委員会開催概要
4. 平成22年度技術講習会の開催
5. 平成22年度電気設備現場見学会の開催
6. 平成22年度北海道赤レンガ建築賞審査結果
7. 当協会の業務及び財産の状況に関する道庁検査結果
8. 本部・支部事務連絡会議の開催
9. 会員企業の社名変更について
10. 平成23年 1月~ 3月行事予定
11. その他意見交換

◇平成23年 2月14日(月) 12:00~13:30

第11回議題

1. 役員改選の対応 (案)
2. 平成22年度電設業関連四団体懇談会
3. 電気・空衛連絡協議会及び同幹事会の開催
4. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会
5. 本部・支部事務連絡会開催概要
6. 北海道空衛協会通常総会後の懇親会の案内
7. 北海道建築士事務所協会通常総会後の意見交換会の案内
8. 札幌弱電設備業協同組合通常総会後の意見交換会の案内
9. 平成23年 2月~ 3月行事予定
10. その他意見交換

◇平成23年 3月22日(火) 12:00~13:30

第12回議題

1. 本部第236回政策委員会報告
2. 役員改選等の対応 (案)
3. 会員の退会
4. 会費等級格付けによる会費見直し (案)
5. 電業協会功績者表彰の推薦
6. 通常総会 (45回、55回) までのスケジュール
7. 設備設計事務所協会との意見交換会
8. 平成22年度第 2 回評議会の開催
9. 電設業関連四団体懇談会の開設概要
10. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会
11. 平成23年度電気・空衛連絡協議会の開催概要
12. 法人職務執行者の変更
13. 平成23年度「技術安全衛生基礎教育講習会」の開催
14. 平成23年 3月~ 4月行事予定
15. その他意見交換

総務委員会

◇平成23年3月3日(木) 12:00~13:30

第4回議題

1. 平成22年度事業実施状況及び23年度事業計画
2. 平成22年度電業協会功績者表彰者の推薦
3. 会費等級格付けによる会費の見直し
4. 通常総会(45回・55回)迄のスケジュール
5. 平成23年役員会等の日程
6. 当協会の業務及び財産の状況に関する道庁検査結果概要
7. 本部・支部事務局長会議開催概要
8. 平成22年度電設業関連四団体懇談会の概要
9. 平成23年電気・空衛連絡協議会の活動
10. 平成23年3月~4月行事予定
11. その他意見交換

経営委員会

◇平成23年3月17日(木) 12:00~13:30

第5回議題(議長:元永副委員長)

1. 第4回議事録(案)の承認
2. 電設協第236回政策委員会の開催概要
3. 平成22年度経営委員会事業活動状況
4. 平成23年度経営委員会事業計画(案)
5. 本部・支部事務連絡会議開催概要
6. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会
7. その他意見交換

広報委員会

◇平成23年3月24日(木) 15:00~16:30

第4回議題

1. 平成22年度事業実施状況
2. 平成23年度事業実施計画(案)
3. 会報「夏号」編集方針
4. 会報「春号」校正
5. その他意見交換

技術安全委員会

◇平成23年3月10日(木) 12:00~13:30

第4回議題

1. 実施報告
 - ・技術講習会の実施(電気設備工事の施工計画)
 - ・電気設備見学会の実施(株ダイヘン、株ダイナックス)
2. 平成22年度技術安全委員会事業報告
3. 平成23年度技術安全委員会事業計画
4. 講習会のお知らせ
 - ・平成23年度電気工事施工管理技士受験準備講習会 1級学科・1級実地
 - ・平成23年度「技術・安全衛生基礎教育講習会」
 - ・平成23年度登録電気工事基幹技能者特例講習会
 - ・平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会
5. 本部・支部事務連絡会議 概要
小川専務理事から
6. 総会までのスケジュール
7. その他意見交換

厚生委員会

◇平成23年3月18日(金) 16:00~17:00

第2回議題

1. 平成22年度各部会行事実施報告
2. 平成23年度厚生委員会事業計画(案)
3. 平成22年度決算及び23年度予算(案)
4. その他意見交換

事務局日誌

- 1月6日(木)・官公庁新年挨拶
- 12日(水)・電気関係三団体賀詞交歓会
(グランドホテル) 中野副会長ほか
・本部電設協会賀詞交歓会
吉川支部長
- 17日(月)・第10回三役会
- 20日(木)・設備設計事務所協会新年交歓会
(京王プラザホテル) 中野副会長
- 21日(金)・業務及び財産の状況に関する道庁検査
- 25日(火)・第6回理事会・常議員会
- 26日(水)・商工会議所新春交換会
(パークホテル) 小川専務理事
- 28日(金)・本部運営委員会
・本部理事会
(東京) 吉川支部長他
- 2月4日(金)・本部・支部事務連絡会議
(東京) 小川専務理事
- 14日(月)・第11回三役会
- 17日(木)・技術講習会(電気会館)
「電気設備工事の施工計画」
- 21日(月)・電設業関連4団体懇談会
ほくでん北二条クラブ
- 24日(木)・電気設備現場見学会
(株ダイヘン、株ダイナックス)
・道空衛協会総会
(京王プラザホテル) 吉川会長
- 26日(金)・歌唱部会
- 3月3日(木)・第4回総務委員会
- 9日(水)・第4回技術安全委員会
・ゴルフ部会
- 10日(木)・札幌弱電設備業協同組合総会
(ライフォート札幌) 小川専務理事
- 11日(金)・本部政策委員会
(東京) 山口副会長
・(株)北弘電社創業百周年、創立60周年感謝の集い
(京王プラザ) 吉川会長他
- 15日(火)・電気空衛幹事会
・札幌市と電気空衛協議会の意見交換会
・電気空衛連絡協議会
(北海道設備会館)
- 17日(木)・第6回経営委員会
- 18日(金)・本部運営委員会
(東京) 吉川支部長
・第2回厚生委員会
- 22日(火)・第12回三役会
- 23日(水)・設備設計事務所協会と電気・空衛協会との意見交換会
(北海道設備会館)
- 24日(木)・第4回広報委員会
- 25日(金)・本部理事会
(東京) 吉川支部長
- 30日(水)・第6回理事会
・第2回地区代表者会議
(評議員会)

編集後記

春号の発刊間際に東北関東大震災が発生し、報道される悲惨な画面に目を覆うばかりでありました。被災された大勢の皆様には心からのお見舞いを申し上げます。

折田憲一原子力安全保安院北海道産業保安監督部長様には海外における多くの体験でも想像を絶する今回の事態であることや今後の復旧に関しては、国民上げての互助精神が大切である旨の巻頭言を送ってくださり誠にありがとうございました。

今回の事故は地震災害と大津波災害さらにそのエリアにあった原子力発電所の津波による安全装置の破壊が原因と思われる放射能汚染とこれまで経験したことがない災害が三つ重なりあった未曾有のものとなりました。特に、原子力発電施設の事故につきましては我々業界に取りましても大変憂慮すべき事態となっております。

今、北海道にいる我々ができること、しなければならぬことを着実に実行し、一日も早い被災地の復興をお祈りしたいと考えています。

広報委員長 橋本 耕二

社団法人 北海道電業協会活動スローガン

1. 業界の健全で持続的な発展のため、適正な価格・工期での受注を確保し、施工品質と安全性を確立しよう
2. 若者が生きがいを持って活躍でき、生涯を託すことが出来る魅力ある電設業界を目指そう
3. 省エネルギー対策の強化とともに、地球と人に優しい再生可能エネルギーの活用を推進しよう
4. 対話を通じて顧客ニーズに的確に対応し、電気設備工事の品質と価格の透明性を確保する「分離発注」を強力に推進しよう



発行 平成23年4月
社団法人 北海道電業協会
札幌市中央区南1条東1丁目3番地
パークイースト札幌6階
TEL (011)271-2932
FAX (011)271-2952
E-Mail:dodenkyo@estate.ocn.ne.jp